

由利本荘JC

わがLOMのシニアクラブ

「継続は力」なり



国際交流事業

光陰矢の如し、由利本荘JCが創立されて早や30年以上になる。

たった2年間の在籍であったが、私にとって第二の青春時代であったような気がする。年代を超えて若い会員とも付き合うことができ、シニアになった今でも現役員との交流は続いており、私にとって貴重な財産となっている。

思えば1972年厳冬の2月11日、創立総会を開催、同年5月19日、第494番目のJCとして承認されたが、資格審査を受けるため上京し、ラッシュの中、やっと時間間に間に合ったことが思い出される。そして真夏の8月にチャーターを開催し、57名のメンバーで由利本荘JCが設立された。

創立10周年を迎え、10代理事長の須田精一氏の時に当時としては画期的な海外JC(韓国梁山青年会議所)と姉妹締結を結んだ。会員相互の訪問から始まり、小学生の絵画交流・ホームステイ等々、今でも継続されている。本荘市でもこの事業を高く評価し、市同士でも締結したいとの希望があり、両JCの肝入りで1998年10月友好交流協定を結び、行政はもちろんのこと、一般市民の交流も続いている。

1986年には創立15周年を記念し、全

市民が参加できる新しい夏祭り「菖蒲カーニバル」を手作りで開催した。作詞・振り付けは市民にお願いし、今では本市の夏の一大イベントとして定着している。

ところで、今でも思い出すのはチャーターの時の総会講演で、TDKの故山崎会長が「継続は力なり」と力説されたことである。JCは設立されたものの年齢制限もあり、果たして将来続いていくだろうかというところが当初心配であった。しかし、そのことは全く杞憂することなく、第46代頭に村岡兼幸氏を輩出するまでに成長した。こんな地方の小さなLOMから会頭職を出せるのか、我々シニア会員も心配したが、立派に成し遂げたのには感心した。

現在のOB会員は145名、この地域のいろいろな分野で重要な役割を担っており、一般からもその存在が大いに認められている。現在、毎年の総会、現役との合同新年会、現役三役を招待しての忘年会、ゴルフ大会、その他現役との交流が盛んに行われている。

これからも「継続は力なり」をモットーに、地域の発展のため努力してもらいたいと思っている。

◎由利本荘JCシニアクラブ

会長 伊藤 恒



現役・シニア懇親会



第20代理事長決定(1990年11月臨時総会にて)